

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立長良高等学校（学校番号：3）

## ○自己評価

学校教育目標	「開拓者」として広い視野と高い志をもってチャレンジし続けるとともに、様々な他者と協働し、未来を切り拓くことができる生徒を育成する。		
スクールポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（G P）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（C P）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（A P）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、行動できるとともに、多角的な視点で物事を捉えて、よりよい問題解決を目指すことができる生徒</li> <li>・多様性の中で礼節をわきまえ、人とのつながりを大切に、自らの役割と責任を果たすことができる生徒</li> <li>・夢や希望をもって挑戦し続け、未来を切り拓くことができる健康な心身をもつ生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の自己実現に向けて、基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力を育成するための質の高い授業を創造と個々に応じたきめ細やかな指導の実施</li> <li>・探究的な学びによる「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育むとともに、グローバル化に対応するコミュニケーション能力（使える英語）や国際的素養を身につける</li> <li>・人間力の育成を目指した学業と部活動等の両立の推進を通して、知・徳・体のバランスのとれた指導を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学を目指し、主体的に学び、自らの可能性に挑戦したいという意欲のある生徒</li> <li>・多様性を尊重し、他者と協働しながらよりよい学校社会を築いていこうとする意欲のある生徒</li> <li>・「文武」において切磋琢磨し自己を高め、有為なリーダーを目指そうとする意欲のある生徒</li> </ul>
現状の分析	文武両道の推進をとおして進学実績も近年上昇し、コロナ禍でいろいろな制限がある中でもその状態を継続している。部活動で活躍する生徒も多く、挨拶もしっかりでき、明朗快活な生徒が多い。また、入学希望者も多い状態が近年続いている。しかし、その一方でコロナ禍の中で、不登校傾向の生徒も多い。また、感染症対策の徹底のために従来とは異なる職員の業務が増えるとともに職員同士の意見交流の場が減っている。		
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学びと心身の健康を守るための教育活動と感染症対策の徹底の両立</li> <li>・生徒の進路実現にむけた全校体制の推進と働きやすい職場づくり</li> </ul>		
今年度の具体的な重点目標 (マニフェストより)	1 主体的な学びと夢の実現 【学習指導・進路指導】	・学習習慣の確立と学力向上・学習意欲の喚起と明確な進学目標の設定・一人一人の進路目標の実現に向けた指導体制の充実	
	2 共生力を備えた地域社会人 【学習指導・生徒指導・特別活動】	・人権教育・情報モラル教育の推進・国内外の大学等や地域との連携充実による学びの推進・地域等への情報発信	
	3 夢に挑戦する中で培う人間力 【特別活動・生徒指導・教育環境】	・文武両道の推進・協働的な学びの充実・基本的な生活習慣の確立	
	4 働きやすい職場づくり	・職場環境改善の推進	

取組状況

重点目標 1

重点目標の達成に必要な具体的取組・方策（マニフェストより）	達成度の判断、判定基準あるいは評価指標	評価
① 基礎的な知識・技能を確実に定着させ、学力の伸長を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行います。	①各考査や外部模試の分析結果の比較。生徒による授業アンケート（効果的なICT 活用含む）2回実施による比較。	B
② 個別面談や大学の講義動画の活用等を通して早期からの進路目標の明確化を促すとともに、放課後補習や土曜講座、長期休暇中の補習等の効果的な実施により、その実現を目指します。	②現役国公立大学合格者数 100名以上。岐阜県・愛知県の国公立大学 50名以上 生徒アンケート（進路指導に満足している生徒80%以上）	B
③ 外部講師による研修会を開催し、教員の指導力向上を目指し、全職員による進路指導体制を推進します。	③職員の研修後アンケートによる分析。	A

重点目標 2

① 命の教育や情報モラル教育を充実させ、多様性の中で互いの人格を尊重する心を育むとともに、心のサインに気づき即対応できる教育相談体制を拡充します。	①講演会の実施。講演等の後のアンケート内容で評価。「いじめアンケート」、「心のアンケート」の件数と対応状況。	B
② 探究的な学びを通して「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をはぐくみ、グローバル化に対応するコミュニケーション能力等を身に付けるための教育を推進します。	②地域連携による活動の内容と回数及び、留学生との交流、校内外検定・コンテストへの参加回数、内容で評価。	A
③ HPを通じた積極的な発信により学校に対する理解を深めます。	③HPの内容の充実。保護者アンケート、中学生への説明会実施後のアンケートで評価。	A

重点目標 3

① 部活動への積極的な参加を促し、目標を掲げやり抜く力を身につかせるとともに、活動の成果を全校で共有し互いに認め合い、高めあう態度を育みます。	①部活動加入率 85%以上。部活動ごとの目標設定及び活動実績で評価。伝達表彰式や部活動の発表の場の設定状況。	A
② 生徒会を中心に、コロナ禍における新しい学校行事を模索・創造する中で、協働性や問題解決力を育成します。	②学校行事後のアンケートで評価。	A
③学校生活のあらゆる場面で「凡事徹底」を合言葉に基本的な生活習慣の確立を図ります。	③挨拶、身だしなみ、時間厳守、環境整備等について、生徒アンケートおよび保護者アンケートで評価。	B

重点目標 4	職員同士のコミュニケーションを大切にするとともに、調査や面談等により、風通しのよい職場環境づくりを目指します。	①ハラスメント調査、時間外在校時間、ストレスチェック、面談結果	A
--------	---	---------------------------------	---

成果と課題	<p>・教員研修を行い全体の指導力アップを図ることによって、全職員体制で生徒の受験指導にあたる「長良スタイル」を推進できた。また、部活動加入率も高く、各部活動の指導目標や生徒の学習状況を職員が共有することにより文武の両面を全職員で指導する体制を充実させた。コロナ禍における長良祭を創造するとともに、生徒の活躍を校内放送やHP等で発信する場を増やし、長良プライドの醸成を図ることができた。PDCAサイクルにより改善策を検討し、職員同士のコミュニケーションも大切にすることができた。</p> <p>・新学指導要領実施1年目であり授業改善をさらに進めることが必要であり、ICTの効果的な活用や言語活動の充実等をさらに研究し、生徒の学力の伸長を図る。3年間を見通した進路指導計画のもと、生徒の学習習慣の確立を図る指導を強化していく。部活動や行事等により生徒の絆づくり・居場所づくりを推進するとともに、生徒のつまずきを早期に発見し支援する体制づくりをすすめる。</p>	総合評価
		A
来年度への改善方策	<p>・ソフトウェア利用に関する更なる研修を実施し、情報機器等のルールの周知徹底を図る。</p> <p>・計画的な学年集会の実施により、学習習慣確立の重要性の周知を図る。</p> <p>・関係職員の共通理解を図る機会を増やし、全職員が同じスタンスで生徒に当たる。</p> <p>・3年生保護者対象のみであった進路講演会を、新たに1・2年保護者対象進路講演会も行う。コロナ終息後は、学部別大学見学会や理系女子研究室訪問等の行事を実施を検討する。外部講師による小論文・面接研修会の継続や、3年間の補習の位置づけを再確認する。</p>	

## 学校関係者評価（実施年月日：令和5年2月2日）

<p>・新型コロナウイルス禍の中、多くの行事が復活してきたことは良かった。以前の様な対面での活動への復帰を期待する。</p> <p>・勉強と部活動の両立を目指す「文武両道」がなされている。</p> <p>・授業等へのICT機器が導入され、活用されている。セキュリティ対策の向上も望む。</p> <p>・コロナ禍では感染症対策として多くの出席停止者がいたが、この中に隠れていた不登校者が、来年度以降現れて来るとも考えられる。生徒の心の悩みに対し、生徒や保護者への支援をお願いしたい。</p> <p>・行ける大学ではなく、行きたい大学選びを心掛けさせる。そのためには早い学年からの進路指導を心掛け、生徒の個性を尊重した指導を行って欲しい。</p>
---